資料５

地域対応施設の検討の方向性

対象施設に関する類似機能や利用状況等を踏まえ、次のとおり今後の検討の方向性（案）を示します。

地域対応施設	特徴・課題
文化センター	・全体的に、日中の稼働が高く、夜間は低い傾向。講堂や会議室の稼働は、概ね 60～70%であるのに対し、料理講習室、談話室、ホール等は 20%以下と低い状況。 ・定員充足率は概ね 50%と、定員に対する利用者は半分程度。 ・文化センター内には、会議室と講堂など、似通った機能が複数含まれる。 諸室の貸出枠に対する利用状況（稼働率）、諸室の定員に対する利用者の割合（定員充足率）には余裕がある。
地区図書館	・各図書館は、冊・点数の多い所で約 12 万冊、少ない所で約５万冊となる。 ・「府中市文化センターのあり方に関する基本方針（令和５年度）」等では、市民意識調査、利用者アンケート等の結果から、身近にある図書館は、書籍や雑誌の充実よりも学習・読書のできるスペースや静かな空間・話すことができる空間、貸出・返却の窓口に期待されているとしている。
地域体育館	・会議室の稼働は 60%～70%と比較的高い。（※体育室は、一般開放に重きを置いていることから、他施設の稼働率と比較することは難しい。）
庭球場	・ナイターの稼働は 80%近く、日中は 90%程度と稼働が高い傾向。
学校開放	・体育館の稼働が 90%以上であるのに対し、武道場は 60%程度。 ・他施設との類似機能がある。
学童クラブ	・定員充足率が 100%超の学童クラブが多い。 ・学童クラブ及び放課後子ども教室については、一部の学校を除き学校敷地内で運営されている。
地域プール	・モデル事業２の取組で一定の方向性を示している。

検討の方向性（案）
・近隣にある他施設との共用や、利用者数に応じて諸室の大きさを変更できるようにすることで、施設を無駄なく、効率的に活用することが期待できる。 ・地区図書館と学校図書館は、類似する機能であることから、いずれかの施設に機能を集約したり、貸出窓口や書庫、学習・読書ができるスペースなどの機能分担することが考えられる。 ・中学校８校にはテニスコートがあり、開放の可能性を検討することができる。 ・庭球場の稼働は高いことから、集約する場合は、利用ニーズに対応する面数を確保する必要がある。 ・学校の体育館や校庭と比較して稼働の低い武道場については、機能が類似する他施設のニーズも踏まえ、機能更新のタイミングで機能を最適化し、他施設との連携の可能性を探る。 ・学校の会議室、家庭科室、図工室など他施設と類似する機能について、開放の可能性が考えられる。 ・学童クラブの活動スペースが不足する場合、他施設を活用することが考えられる。